

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次にステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営			さくらユニット・コスモスユニット共通		
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を職員全員が共有できる場所に掲げ、周知を図り実践につなげている。	毎日、朝・夕の申し送りの時に、理念を確認して業務を開始し、実践できるようにされています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩や買い物時での交流、地域の祭りや敬老会等への参加、ボランティアの受け入れを行っている。	地域の夏祭り・秋祭りやバザー、市の敬老会などに参加し、ボランティアを受け入れるなど積極的に地域との交流を図っています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の安心声かけ訓練への参加・協力や、実習等の受け入れを行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議ではサービスの実際、評価への取り組み状況等の報告や意見交換を行っている。そこで出た意見や助言を、サービス向上にいかせるよう取り組んでいる。	年に3回開催されています。そこで意見や助言をサービス向上に活かせる様に取り組みまれています。	今後は定期開催が出来るように、工夫をしながら取り組んでいきたいと話されています。今後の取り組みに期待しています。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くよう取り組んでいる。	事業所の近所でもあり、日頃から連絡を取り合い、協力関係を築けるよう取り組んでいる。	市からの要請で住民を対象に認知症講座を開催したり、地域ケア会議に参加するなど連絡・連携を欠かさず、協力関係を築くよう取り組まれています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる	研修する機会を多く持ち、学ぶ機会を設けている。職員同士で話し合い、身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。	昨年度から特に力を入れて、身体拘束しないケアについて研修を行い、職員同士で話し合い、日常のケアに活かせるよう取り組んで来ています。	
7		○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所ないでの虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修を行い学ぶ機会を設けている。虐待防止の徹底に努めている。		

8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修等を行い学ぶ機会を設けている。また、必要のある方には活用できている。		
9	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行うとともに、思いや質問等を傾聴し、理解・納得を得られるようにしている。		
10	6 ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見や要望等を、運営に反映できるように努めている。	面会時に家族から意見を聞き取っています。また運営推進会議での意見や要望についても職員で話し合い運営に反映できるように努めています。	
11	7 ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている	職員会議や業務の中で出てきた意見・要望等を、運営に反映できるように努めている。	職員が気がついた事をノートに記入し、職員間で共有し話し合い、タイムリーに対応できる体制を築いています。	
12	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の要望や状況等を把握し、雇用形態や勤務形態等の変更を行っている。また、やりがいを持って働けるよう環境・条件の整備に努めている。		
13	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修への参加や情報の提供を行っている。また、職員研修等で学ぶ機会を設けている。		
14	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	研修や会議等への参加で交流を図り、情報交換等を行っている。		

II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前での面談により、困りごとや要望等を聞き、また、入居後もその都度要望等を聞き、対応している。	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	不安ごと・困りごとが言いやすいような雰囲気づくりを心掛け、要望等を十分に傾聴し、気軽に何でも話せる関係作りに努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族が何を必要としているかを見極め、その要望を取り入れた支援に努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事等を一緒に行ったり、職員はいろんな事を教えてもらっている。また、喜怒哀楽を共にし、一緒に支え合う関係づくりを築いている。	
19		○本人と共に過ごし支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃の生活の様子を報告している。通院介助や外出も行ってもらっている。いつでも面会や外泊できるように支援している。	
20	8	○馴染みの人や場と関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みのある店への買い物や、散歩等の外出を行っている。地域での行事等への参加も行っている。	家族の協力のもと、昔からの行きつけの美容院へ行ったり、外出したり、その都度検討されて対応されています。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	関係性を見極めながら、お互いが支え合えるような環境作りを支援している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて連絡を取っている。ご本人の様子を見に行ったりし、交流も図っている。	

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いやり意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段からコミュニケーションをとり、思いや希望を聞いている。また、日頃の会話や行動により、その方の希望等の把握に努めている。	日々の関わりの中で声を掛け、希望や意向の把握に努めており、言葉や表情などから汲み取るように努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める	ご本人・ご家族等から生活歴の情報を得ている。ご本人との会話の中から出てくる内容からも把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護経過記録や申し送り、カンファレンス等を通し把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人・ご家族等の意見を反映できるように作成している。カンファレンス等での意見も取り入れている。	ご本人やご家族には日頃の関わりの中で、思いや意見を聞き、計画に反映できるようにしています。アセスメントを含め職員で話し合いを行いながら作成しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	センター方式を使い、職員全員で記入し共有している。また、見直しにいかしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々要望に応じて、柔軟な支援に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの方との交流、消防等と協力しながら支援を行っている。		

30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人・ご家族の要望により、かかりつけ医が異なっている。主治医と密に連絡を取り、必要に応じて専門医への受診も行っている。	以前からのかかりつけ医の往診や提携医の往診もあり、急な対応にも通院や往診できる体制を整え、適切に医療を受けられるよう支援されています。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している	訪問看護師や地域の看護職員に相談しアドバイスを受け、適切な受診等が受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	担当者の方と連絡を取り合い、情報交換を行い相談している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に説明を行い、ご本人・ご家族の要望を聞き、話し合い共有している。書面での署名・捺印を頂いている。	入居時に説明を行い家族、本人の要望を聞き、体調が悪くなった時など、その都度話し合いをしながら対応されています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修等での勉強会の実施。また、実践につなげている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	研修や訓練の実施。年2回消防署との避難訓練を入居者の方々と行っている。	年に2回の消防訓練をされており、近隣の施設と協力体制を構築できるよう働きかけを行おうとされています。	

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーを尊重し、常に冷静に感情的にならず、一人の人、目上の人として接するように心がけている	トイレの声掛けなど、プライバシーに配慮され、さりげなく行われています。また会議で話し合いを行い、適切な対応が出来るように取り組まれています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	着たい服を着る等、自分で決定できるように支援したり、買いたい物に出かけたい等の希望を、言いやすいような雰囲気づくりを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	居室で一人ゆっくり過ごされる方、みんなと一緒に体操や会話を楽しまれる方と、それぞれの方が過ごしたいように生活を送られている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分が着たい服を選んだり、毎日お化粧をされたりしている。外出される時は、普段よりもおしゃれをしてもらっている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と共にメニュー作りを行っている。好きな物を取り入れたり、嫌いな物を別メニューに変えたりして提供している。職員と共に準備や食事、後片付けもしている。	各ユニット毎にメニューを作成し、ご利用者のお好みを取り入れておられます。ご利用者の出来ることをして頂きながら食事を職員と一緒にされ、笑顔が見られました。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、集会に応じた支援をしている	食事量・水分量を記録し、不足がないか把握している。その方によっては、水分をこまめに摂ってもらう等し、良好な体調を保つように支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の状態に合わせたケアを行っている。声かけや見守り、できない所のみを介助し、清潔を保つようにしている。		

43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	一人ひとりの力や排泄パターンを把握し、排泄の失敗やおむつの軽減を図っている。自立に向けた支援を行っている。	一人ひとりの排泄パターンを把握され、声掛けなどを行い、その人に合った自立支援に向けた取り組みを行っています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	規則正しい生活を送れるよう支援し、食事や飲み物等の工夫も行っている。また、必要に応じ主治医に相談し、対応している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	個々の希望に沿って入浴してもらっている。また、時間帯についても、希望に沿って対応している。	その日の体調を確認し、ご利用者の希望に沿って、毎日の入浴など、柔軟に対応されています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の体調や生活リズムに合わせて、休んでもらったりしている。気持ちよく眠れるよう、室内の音や室温に配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報は個々のファイルに保存し、職員全員が確認している。症状の変化時等はすぐに対応するよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意分野を發揮できる機会を設けたり、趣味が継続できるよう支援している。外出等の気分転換も図っている。		

49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	できるだけ希望に沿い、買い物や散歩等の外出支援を行っている。また、ご家族と外食に出かけたリ、買い物に行かれたりされている。	家族の協力もあり、買物や外食など外出されています。天気の良い日など、散歩されたり、花見や町の敬老会などに出掛けられるよう支援されています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一部の方には自分でお金を持ってもらっている。買い物時等では自分でお金の支払いを行ってもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	ご本人自ら電話をかけられる方もいる。また、いつでも手紙やハガキを書かれ、大切な方とやり取りできるように支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	自然が多く静かな環境であり、建物内は整理され柔らかな光が差し込んでいる。また、季節や行事に合わせた飾りつけをしたり、写真を飾ったりしている。	玄関や廊下は広く開放的で、リビングは明るく窓からは自然の景色が一望でき、季節の飾りつけもされ、居心地良く過ごせるよう工夫されています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアのソファに座りテレビをみたり、食卓で過ごしたりと落ち着いた居場所を持たれている。気の合う者同士で過ごせるよう工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人・ご家族が相談し、馴染みのある家具やテレビ等を置いたりされている。写真を飾ったり、好きな物を置かれている。	本人が使い慣れた家具などを使用され、写真なども飾られており、居心地良く過ごされているご様子が伺えます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーや手すりの設置を行い、安全な環境づくりに取り組んでいる。その方に合わせ、居室やトイレの場所が混乱しないような工夫を行っている。		

V アウトカム項目

56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々や状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての利用者と ②利用者の3分の2くらいと ③利用者の3分の1くらいと ④ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない

65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は生き生きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない